

第 2 次江田島市総合計画の 策定方針について

～目 次～

1 計画策定の背景と目的	2
2 計画の構成と期間	3
(1) 計画の構成	3
(2) 計画の期間	4
3 計画策定の基本姿勢	5
(1) 市民・職員の参加を重視した計画づくり	5
(2) 使える計画づくり	6
(3) 未来を切り開く着眼点を持った計画づくり	7

平成 2 5 年 7 月

江田島市総務部企画振興課

1 計画策定の背景と目的

江田島市は、平成 16(2004)年 11 月 1 日、江田島町、能美町、沖美町及び大柿町の合併により誕生し、この間、「自然との共生・都市との交流による『海生交流都市』えたじま」を都市像に掲げ、まちづくりに取り組んできました。

これまでのおよそ 10 年間においては、人口の減少と少子高齢化がさらに進み、産業や雇用などにおいて厳しい状況が続いているとともに、地方分権改革など自治体を取り巻く環境も変化しています。

一方、農水産物の特産化、交流・定住の促進、サイクリングの島としての知名度のアップなど、江田島市の資源・特色を生かし、生み出す取組が進みつつあり、また、まちづくり協議会の設立、自主防災組織の育成など、市民の力を生かし、市民と行政が対等な立場で連携・協力する協働のまちづくりの基盤も整いつつあります。

こうした状況を踏まえ、江田島市の目指す姿や取組などを市民と共有し、ともにまちづくりを推し進めるとともに、厳しい財政状況の中で限られた財源を有効に活用して計画的に施策を実行していくため、第 2 次江田島市総合計画を策定します。

本計画は、江田島市の市政運営の根本となる計画であるとともに、市民の参加と協働を進め、市民が主役となったまちづくりを目指すものです。また、市外に対して、江田島市への関心を喚起し、観光振興や交流・定住の促進、地域を超えた人と人のネットワークづくりなどに資することも目的としています。

2 計画の構成と期間

(1) 計画の構成

本計画は、将来の長期的な展望の下に市政のあらゆる分野を対象とした総合的かつ計画的なまちづくりの指針であり、基本構想、基本計画及び実施計画によって構成します。

●基本構想

江田島市のまちづくりの基本的な理念であり、都市像及び将来の基本目標を示し、基本計画、実施計画の基礎になります。

●基本計画

基本構想を達成するために具体的な施策などを体系的に示すものです。

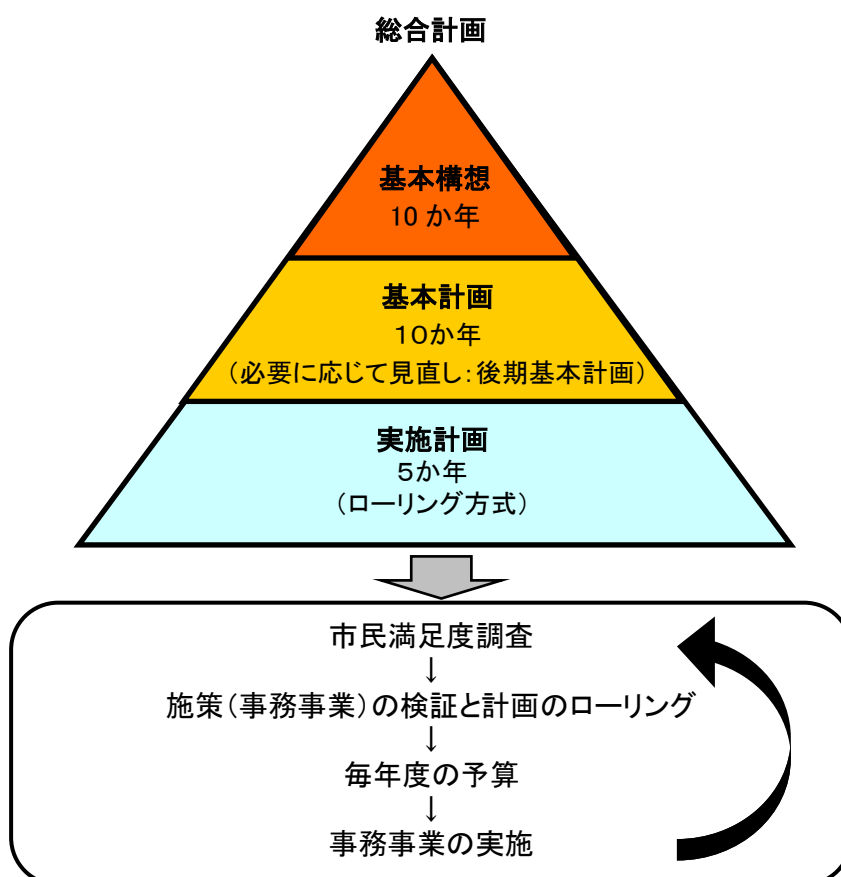
次期計画においては、社会状況の変化や計画の進捗状況を踏まえ、必要に応じて5年後に見直しを行います。

●実施計画

基本計画の実施のために、必要な事務事業を明らかにする中期計画です。

次期計画における実施計画の計画期間は5年間とし、毎年度、市民満足度調査を実施し、施策（事務事業）の検証と計画のローリングを行い、現実に即した弾力的な対応を図ります。

【総合計画の構成と展開】



※市民満足度調査

主として施策ごとに、現状や施策に対する満足度及び今後の施策に対する重要度について聞く、市民を対象としたアンケート調査。

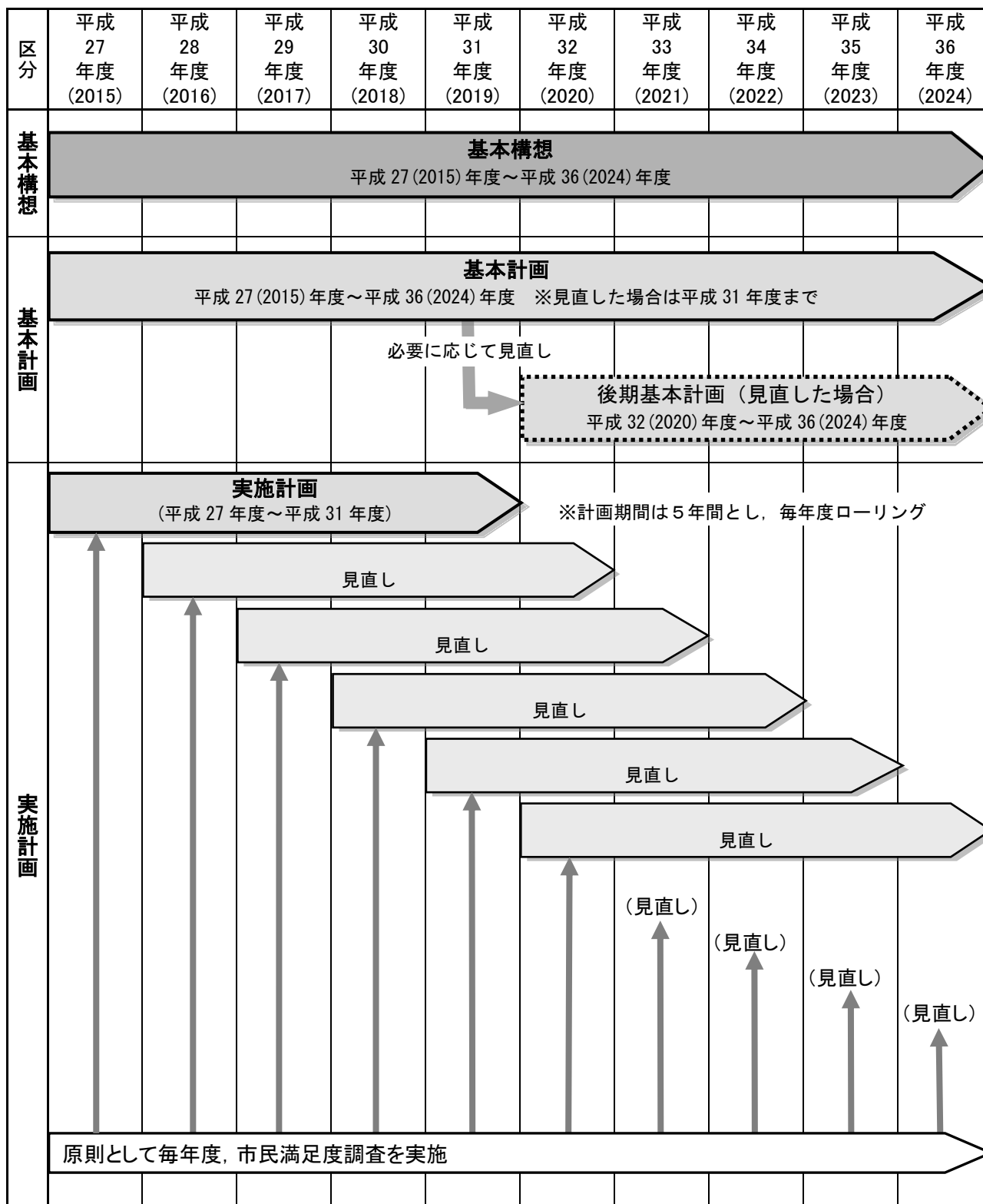
※ローリング方式

計画を実施しながら、毎年定期的に計画と実績などについて検討を行い、必要に応じて計画を見直す方法。

(2) 計画の期間

本計画の計画期間は、平成 27(2015)年度から平成 36(2024)年度の 10 年間とします。

■ 第 2 次江田島市総合計画と計画の期間



3 計画策定の基本姿勢

計画策定に当たっては、次の3つを基本姿勢とし、基本構想、基本計画及び実施計画を策定します。

- 市民・職員の参加を重視した計画づくり：参加のプロセスの重視
- 使える計画づくり：わかりやすい、実効性のある計画
- 未来を切り開く着眼点を持った計画づくり：市民が期待を持てる計画

(1) 市民・職員の参加を重視した計画づくり

●市民の声を生かした計画づくり

これからのまちづくりは、市民の理解と協力、そして参加・協働によって、市民の知恵や力を結集した取組がより一層大切になります。

このため、計画策定にあたっては、市民を対象としたアンケート調査、市民ワークショップを行い、市民の声や意見の把握・反映に努めます。

また、審議会における審議の過程は、市HP等で公開するなど市民へ情報発信し、基本構想の素案ができた段階では、広く市民等から意見・情報を募集するパブリックコメントを実施します。

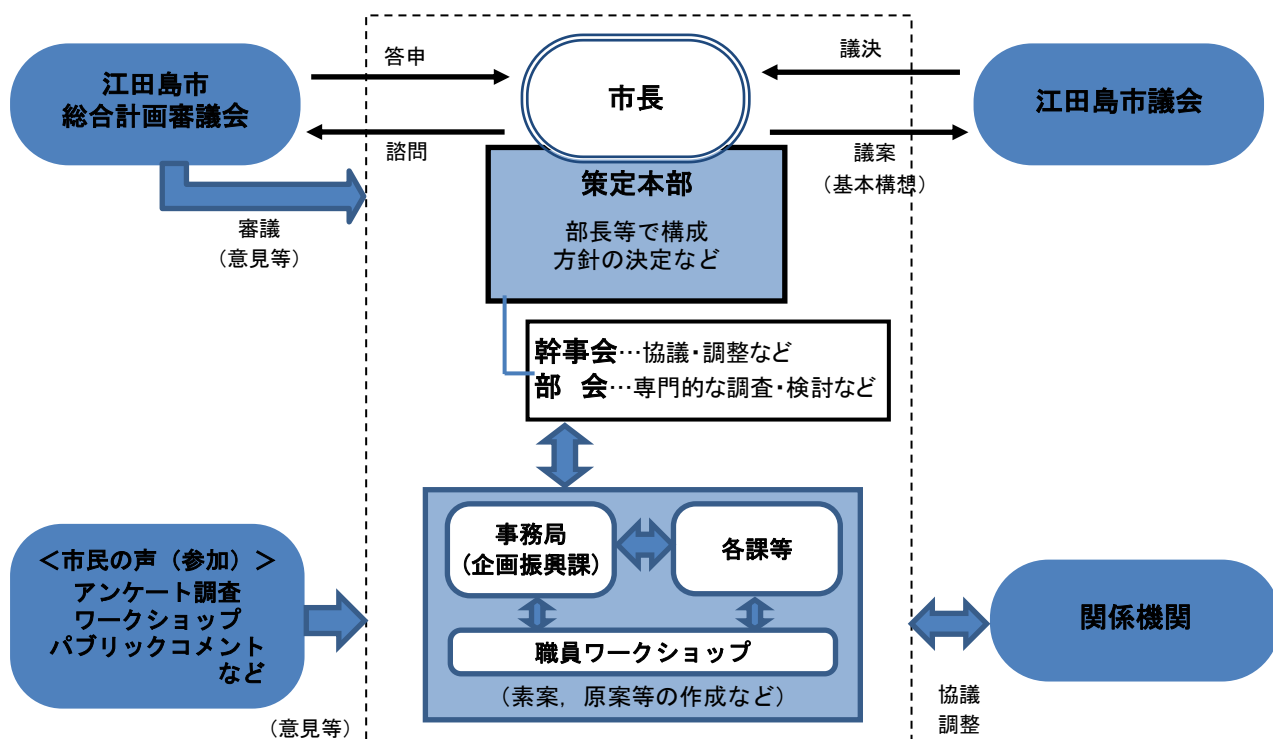
●職員参画の計画づくり

計画策定に職員がどのような密度で関わったかは、計画の具体化や管理に大きく影響します。

このため、庁内に策定本部を設置し、これまでの計画の評価や課題の設定、新たな計画内容の検討などに一貫して取り組む態勢を確保するとともに、必要に応じて幹事会・専門部会を開催し、庁内の調整、専門的な調査・検討を行います。

また、若手から中堅職員までを対象とした職員ワークショップを行い、広く職員が参画する計画づくりを進めます。

【計画策定の体制】



(2) 使える計画づくり

●まちづくりの機運を高めるわかりやすい計画づくり

次期計画が使える計画となるためには、計画が市民の間に浸透していく必要があります。それには、市民が積極的にまちづくりに参画しようという機運を醸成するような内容に加えて、わかりやすさが求められます。

このため、市民目線の視点を持ちながら、緊急性の高い施策や市民の関心の高い施策に対しては、可能な限り具体的な対策を盛り込むよう努めるとともに、やさしく簡潔な文章表現と、見出しや図表の使い方、レイアウトなどの編集上の工夫により、思わずめくってみたくなる計画づくりを目指します。

●まちづくりの課題や社会・経済情勢の変化に対応できる計画づくり

次期計画が、住みよく元気な江田島市を築く計画となるためには、行政として実施しやすい施策を網羅しただけのプロダクトアウト型の計画ではなく、市民のニーズを基づいて、まちづくりの課題を把握し、その解決を目指すマーケットイン型の計画が求められます。

このため、計画の策定にあたっては、市民満足度調査や市民ワークショップにおける市民の声や意見から、まちづくりの課題を探し出し、可能な限り施策や事務事業への反映に努めます。

また、計画期間中における社会・経済情勢の変化や新たな課題の発生に柔軟に対応できるよう、施策や事務事業の検証や計画のローリングの方法についても検討します。

●目標と役割分担の明確な計画づくり

次期計画を実効性のある計画とするためには、計画策定後の施策や事務事業の検証や計画のローリングがスムーズに行われる必要があります。このためには、客観的な評価が容易にできる目標の設定と、役割分担（責任）の明確化が欠かせない要素です。

このため、目標の設定にあたっては、これまでのような定性目標だけではなく、測定可能な定量（数値）目標の設定について検討します。

また、役割分担が明確になるよう、施策体系を見直し、部門・分野単位での目標設定についても検討します。

※プロダクトアウト (product out) /マーケットイン (market in)

プロダクトアウトとは、企業が商品開発や生産を行う上で、作り手の理論を優先させる方法で、「作り手がいいと思うものを作る」「作ったものを売る」という考え方。従来の大量生産方式はこれに該当する。

マーケットインとは、顧客視点で商品の企画・開発を行い、提供していく方法で、「顧客が望むものを作る」「売れるものだけを作り、提供する」という考え方。多品種少量生産方式が該当する。

(3) 未来を切り開く着眼点を持った計画づくり

総合計画は、まちづくりの指針であり、実効性を重視したものであることは大切ですが、人口減少や少子高齢化など江田島市の置かれた厳しい状況を考えると、地域の課題解決や社会・経済情勢の変化に受け身で対応するだけでは将来に向かっての展望は開けません。

向かい風を浮力に、『海生交流都市』らしいイノベーションを起こし、将来に向かって市民が期待を持てるような施策についても検討していく必要があります。

このため、次の3つの視点をベースに置きながら、市民からのアイデアも取り入れ、未来を切り開くための着眼点を持った計画づくりを目指します。

●「個性と魅力あるまちづくり」

江田島市は、周囲を海に囲まれた豊かな自然に恵まれており、3F（フルーツ・フラワー・フィッシュ）をはじめとした質の高い一次産物の産地でもあります。

また、少子高齢化の進展は逆風ですが、子供が少ないだけ目が届きやすいという環境や高齢者の持つ知恵や経験も地域資源の一つと言えます。

これらの地域資源を有効かつ有機的に活用し、江田島市の新たな個性と魅力を創造することにより、産業振興や地域の活性化につながる施策を検討します。

●「広域的な視点に立った交流のまちづくり」

江田島市は、広島市や呉市といった都市部と近接し、通勤・通学、買い物といった日常生活においても密接なかかわりを持っています。

人口減少や財政状況を踏まえると、今後は、一部の都市機能については周辺都市と連携することでサービスを確保していくことや、外部からの活力を取り入れる形での地域や産業の振興も視野に入れる必要があると考えられます。

一方で、本市には、海や自然といった周辺都市にはないセールスポイントがあります。心の豊かさ・生活の質を求める時代の変化に対応し、これらのセールスポイントを生かして、広島市や呉市から交流人口を呼び込み、地域の賑わいにつなげる施策を検討します。

●「市民参加による協働のまちづくり」

市民ニーズの個性化・多様化などを背景に、行政主導のまちづくりでは、地域の特性を生かしたまちづくりを進めていくことが難しくなっています。

江田島市では、市内全域の31地域に自治会が組織され、女性会や老人クラブなども様々な活動を展開しており、地域における人間関係が希薄な都市部に比べると、協働の土壌は整っていると言えます。

こうした土壌をさらに発展させ、地域に暮らす人々が本当に望むまちづくりを進めていくとともに、協働から生まれるエネルギーを地域の元気につなげる施策を検討します。

※イノベーション（innovation）

「新機軸」「新しい切り口」新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化を起こす組織・社会の変革。